

幼児教育コーディネータ概論

第2講 「幼児教育コーディネータ」

久世 均(岐阜女子大学)

第2講「幼児教育コーディネータ」

【目 的】

幼稚園教諭の資質向上を目指すキャリアステージにおける講座の在り方を研究し、幼児教育の新たなキャリアである幼児教育コーディネータの養成カリキュラムについて考える。

【学習到達目標】

- 幼児教育コーディネータについて説明できる。
- 幼児教育コーディネータの活動について具体的に説明できる。
- 幼児教育コーディネータと幼児教育アドバイザーの違いについて具体例を挙げて説明できる。

第2講「幼児教育コーディネータ」

1. 幼児教育コーディネータ

「地域・学校園における幼児教育の研修及び専門的指導」のための研修講座の計画立案実践能力，組織化，および地域課題解決への具体的対応力を身につけることにより，地域，学校園における保幼小連携などの幼児教育をコーディネートできる人材

2. 対象者

次の①～③に該当する方とする。

- ① 幼稚園教諭2種免許状所持者で，基礎資格となる免許状を取得した後，幼稚園（特別支援学校の幼稚部及び幼保連携型認定こども園を含む）における教員として在職年数が，12年以上の方。
①に該当する方については，2種免許状を1種免許状に上進可能
- ② 幼稚園教諭1種免許状並びに専修免許状の所持者でスキルアップを目指す方。
- ③ 幼稚園教諭に勤務し，管理職・マネジメントの職務についている方。

幼児教育の新たなキャリアである幼児教育コーディネータ

目 的

「地域・学校園における幼児教育の研修及び専門的指導」のための研修講座の計画立案実践能力、組織化、および地域課題解決への具体的対応力を身につけることにより、地域・学校園における保幼小連携などの幼児教育をコーディネートできる人材の育成や、その能力の向上を図ることを目的とする。

履修証明制度とは、学校教育法第105条及び学校教育法施行規則第164条の規定に基づき、大学が教育や研究に加えてより積極的な社会貢献として、主として社会人向けに体系的な学習プログラムを開設し、その修了者に対して、法に基づく履修証明書を交付するもの。

【履修証明プログラム】

本認定制度は、大学・大学院・短期大学・高等専門学校におけるプログラムの受講を通じた社会人の職業に必要な能力の向上を図る機会の拡大を目的として、大学等における社会人や企業等のニーズに応じた実践的・専門的なプログラムを「職業実践力育成プログラム」（BP）として文部科学大臣が認定するもの。

コース名	幼児教育コーディネータ養成コース（第1期～第3期（100名定員／期））
趣旨・内容	本課程は、「地域・学校園における幼児教育の研修及び専門的指導」のための研修講座の立案実践能力、組織化、及び地域課題解決への具体的対応力を身に付けることにより、地域・学校園における幼児教育をコーディネートできる人材の育成や、その能力の向上を図ることを目的とします。
対象者	次の（1）～（3）に該当する方とします。 （1）幼稚園教諭2種免許状所持者で、基礎資格となる免許状を取得した後、幼稚園（特別支援学校の幼稚部及び幼保連携型認定こども園を含む）における教員として 在職年数が、12年以上の方。（（1）に該当する方につきましては、2種免許状を1種免許状に上進可能） （2）幼稚園教諭1種免許状所持者でスキルアップを目指す方。 （3）幼稚園教諭としてお勤めで、管理職・マネジメントの職務についている方。
総時間数	7科目 77時間（履修証明プログラムは60時間以上）
コース修了条件	各講習における試験またはレポートによる最終試験を全て合格すること。
出願書類	1. 履修証明プログラム受講申請書 2. 写真 2枚

1. 本プログラム修了者は、本学の単位としても認定する。

2. 履修証明プログラム履修生への「通学証明書」「学割証」「成績証明書」等は発行しない。

幼児教育コーディネータ養成コースの開設科目

科目区分	科目名	授業形態	時間数	講義内容(案)
領域及び保育 内容の指導法 に関する科目	遊びと文化Ⅰ	講義	8	幼児期に遊ぶ「折り紙」や身近にある「紙コップ」や「紙皿」などを使い、動くおもちゃを作る。その過程を通して、幼児に身に付けさせる力を考え、それを指導するための方法を考案する。さらには幼児が安定した確かな作品ができるか等の視点を定め、幼児の学びのプロセスを評価し改善・指導できる力の深化を図る。
	遊びと文化Ⅱ	講義	8	
	保育内容（表現）	講義・演習	15	子どもの日々の表現を捉え、共感し育む幼稚園教育要領領域「表現」の考えを理解し、「子どもの表現」の基本的な考えを応用しより専門的に理解を深める。
教育の基礎的 理解に関する 科目	教師論	講義	15	教師は、学習者がその成長・発達に必要な「生きる力」を身に付けることができるよう、学習内容や学習活動の特質、幼児児童生徒の実態に応じた適切な指導ができなければならない。幼児教育における教師の役割と責務について理解を深め、教育者としての資質を深化させる。
道徳、総合的 な学習の時間 等の指導法及 び生徒指導、 教育相談等に 関する科目	教育の方法・技術	講義・演習	15	教育の方法、教育の技術の基礎的理論を学ぶことをとおして、情報機器と教材の保育活動での活用方法を立案し、模擬的に実践する。さらには、特に小学校教育以降において子供たちが身に付ける「論理的思考力」を培うための教育方法について基礎的知識を理解し、指導方法の立案・模擬的実践を行う。
	幼児理解	講義	8	幼児も他者であることを前提に、他者の心を理解する枠組みを理解するとともに、幼児理解についての知識を身に付け、考え方や基礎的態度を理解する。また、幼児理解の方法を具体的に提供し、理解の深化を図る。
	教育相談Ⅰ	講義	8	

幼児教育コーディネータの資質・能力の構造化

参考：岐阜県「教員のキャリアステージ」における資質の向上に関する指標 改訂版【幼稚園等】における【資質充実期】並びに【資質貢献期】（令和3年10月）

資質・能力カテゴリー		幼児教育コーディネータに必要な資質・能力(案)
保 育	保育構想	(1)自園の課題、幼稚園教育要領の趣旨を踏まえた指導計画を作成し、他の教員に広めていくことができる。 (2)幼稚園教育要領の趣旨を踏まえ自園の課題の解決に努め、日常的な保育の改善に向けて研究体制を整えることができる。 (3)各領域等を総合的・一体的に扱う保育のモデルを示すなど、保育実践のリーダーとして指導方法を積極的に他の教員に広めていくことができる。 (4)自園の課題を踏まえ人格形成の基礎を培う実践について、他の教員に伝えたり、適切に助言を行ったりすることができる。 (5)自園の保育力向上に向けた取組の課題を明らかにし、指導計画等の改善を行うことができる。 (6)他の教員に対して、保育実践の評価を生かした指導改善について、適切に助言を行うことができる。
	保育実践	
	評価改善	
教育環境の創造	幼児理解	(1)様々な情報に基づいて幼児一人一人を多面的・多角的に捉え、個性を生かす指導を行うことができる。 (2)継続的に幼児の言動を見届け、価値付ける指導を行ったり、幼児の捉え方について助言を行ったりすることができる。 (3)関係職員や保護者等と協力して、幼児の状況を共有し、組織を生かして指導方法を判断し迅速に対応することができる。 (4)幼児に対する指導を組織的・計画的に実践できるように、体制を整えるとともに問題の未然防止の取組を実践することができる。 (5)幼児の多様な発達の課題を明確にし、それに対応する方策を提案し、園の実践の基点となって実践することができる。 (6)幼児の多様な発達の課題に対する方策を明確にもち、モデルとなる実践を行うとともに、指導内容の改善に向けて助言を行うことができる。
	生活の展開	
	発達の課題	
経 営 分 掌	学級・学年・園経営	(1)自園の分掌全般に関して理解を深め、組織を生かしながら各分掌を推進することができる。 (2)自園の教育目標具現に向けて、園の組織間の連絡・調整を行うとともに若手教員の育成をすることができる。 (3)他の教員等の取組状況を把握し、連絡・調整をしながら対応することができる。 (4)広い視野をもち、関係機関や保護者・地域等と連携し、組織を生かした対応をすることができる。 (5)関係機関や保護者・地域等と連携し、事故等の未然防止や発生時における迅速な対応を行うことができる。 (6)自園を取り巻く環境について、家庭・地域・関係機関との協力体制を整えるとともに、適切に対応することができる。
	連携・協働	
	危機管理	
特別な配慮や支援を必要とする幼児への対応		(1)全校的な支援の充実に向け、職員の連携による指導の体制を整え、組織的・持続的な支援のために主体的に働きかけることができる。 (2)幼児児童生徒への一貫した教育支援を目指し、保護者や地域、関係機関と連携した支援体制の構築を推進することができる。
ICTや情報・教育データの利活用		(1)自からのICT活用指導力を高め、これまでの経験を踏まえた活用方法を提案したり、実践したりすることができる。 (2)自園のICTや情報・教育データの活用を俯瞰的に捉え、組織的な課題を明確にし、解決に向けて働きかけることができる。
インストラクショナルデザイン指導力	インストラクショナルデザイン	(1)自分の学びをデザインすることの必要性について説明できる。 (2)インストラクショナルデザインの第1原理の観点から、現実に役立つ自分の学びを設計できる。 (3)e-Learningにより学修がどのように支援されているかについて、研修以外の学習支援方法を含んで、事例を挙げながら説明できる。 (4)研修成果の評価をどのように行うか。研修が目指した学習目標に即して計画を具現化でき、研修の評価・改善を計画することができる。 (5)研修の学習目標に沿ったワークショップのデザインをすることができる。
	研修成果の評価	
	ワークショップ	
	教育リソース	(6)全ての子供たちの可能性を引き出す個別最適な学びと共同的な学びの実現のための教育資料のデジタルアーカイブの活用について事例を挙げて説明できる。

キャリアステージに対応した幼稚園教諭に求められる資質能力の構造化

講座の基本的方針

1. 学習者自ら学習計画を立て、自ら評価できること。
2. 自身のこれまでの経験が学習の基盤となること。
3. 学習の動機が日常生活や普段の仕事にあること。
4. 学ぶことが目的ではなく、問題解決が目的であること。

参考：岐阜県「教員のキャリアステージ」における資質の向上に関する指標【幼稚園等】
【資質充実期】並びに【資質貢献期】

■ デジタル変革に対応したskill upからSkill change研修

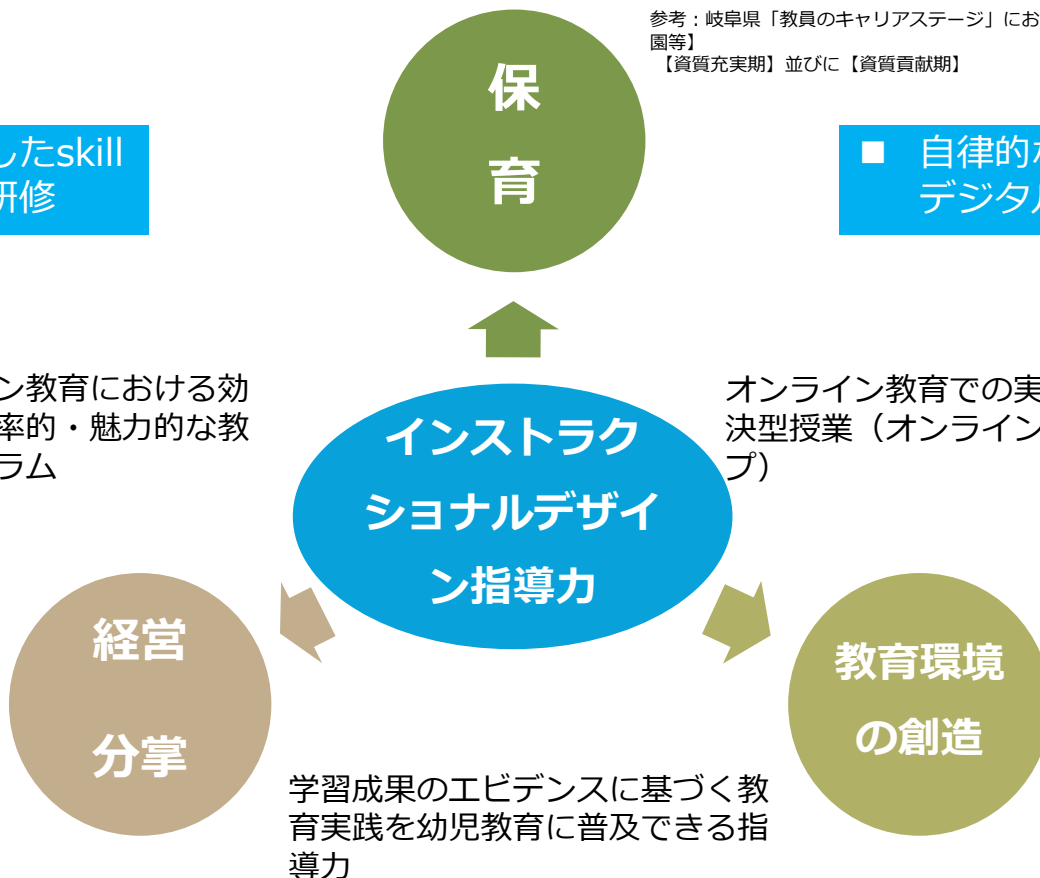
■ 自律的なオンライン研修とデジタル変革への意識改革

オンライン教育における効果的・効率的・魅力的な教育プログラム

オンライン教育での実践的な課題解決型授業（オンラインワークショップ）

■ 知識・技能から資質能力への転換

■ 保幼小連携手法の確立



※ インストラクショナルデザイン指導力：学習成果のエビデンスに基づく効果的な教育実践を幼児教育に普及できる指導力。
※ インストラクショナルデザインとは、「何を（What）できるようにするのか？」を明確にしたうえで、「どうやって（How）できるようにするのか」をルールに基づいて体系的に考えることにより、効果的・効率的・魅力的な教育プログラムを作成するための方法論。

社会的背景

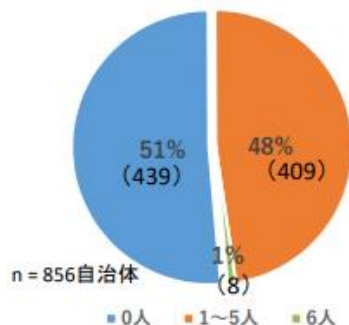
平成30年6月4日幼児教育の実践の質向上に関する検討会〈参考資料〉より

地方公共団体における幼児教育担当の指導主事、幼児教育アドバイザーの状況

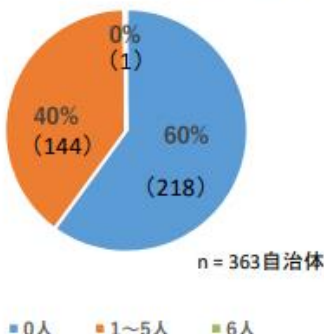
(3) 地方公共団体の推進体制

- 幼児教育担当指導主事を配置している地方公共団体の割合は、全体の約49%。
- うち、幼稚園教諭、保育士、保育教諭（園長を含む。）の経験者を配置している地方公共団体は、約40%。

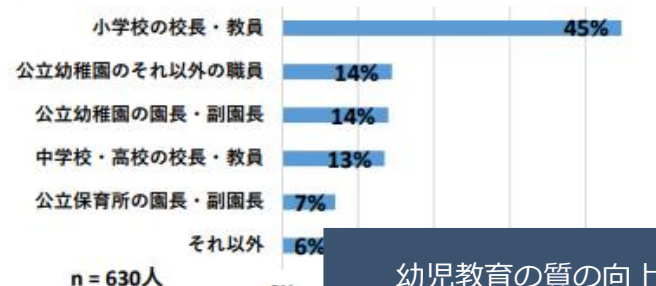
幼児教育担当指導主事の配置数（常勤）



幼児教育担当指導主事を配置する自治体のうち、幼稚園教諭、保育士、保育教諭の経験者の配置数



幼児教育担当指導主事の経歴（上位5つ）

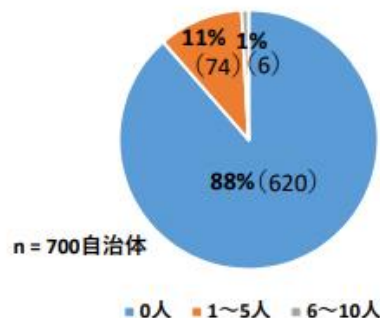


幼児教育の質の向上に
幼児教育アドバイザーの配置

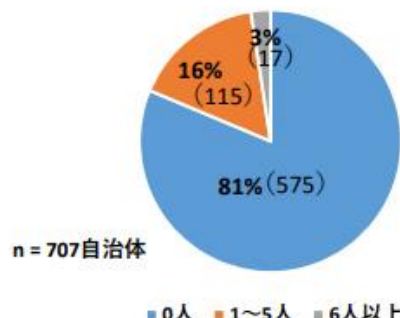
幼児教育アドバイザーを配置している地方公共団体の割合は、常勤を配置：約12%、非常勤を配置：約19%。

※「幼児教育アドバイザー」とは、幼児教育の専門的な知見や豊富な実践経験を有し、域内の幼児教育施設等を巡回、教育内容や指導方法、環境の改善等について指導を行う者のこと。

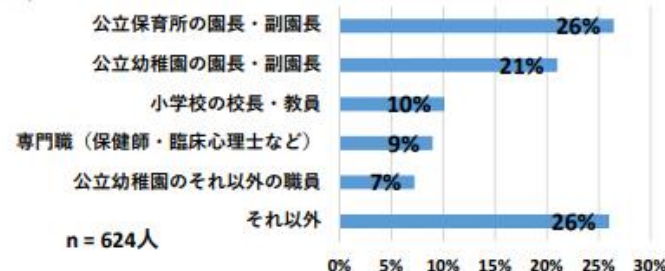
幼児教育アドバイザーの配置数（常勤）



幼児教育アドバイザーの配置数（非常勤）



幼児教育アドバイザーの経歴（上位5つ）



○ 全都道府県・市町村を対象に調査を実施。（平成29年1月時点）
 ○ 有効回答数：1097自治体（回答率：61%）
 ○ 平成28年度「幼児教育の推進体制構築事業」実施に係る調査分析事業成果報告書より作成
 （東京大学大学院教育学研究科付属発達保育実践政策学センター）

課 題

1. 幼児教育コーディネータについて説明しなさい.
2. 幼児教育コーディネータの活動について具体的に説明しなさい.
3. 幼児教育コーディネータと幼児教育アドバイザーの違いについて具体例を挙げて説明しなさい.

第2講「幼児教育コーディネータ」

【目 的】

幼稚園教諭の資質向上を目指すキャリアステージにおける講座の在り方を研究し、幼児教育の新たなキャリアである幼児教育コーディネータの養成カリキュラムについて考える。

【学習到達目標】

- 幼児教育コーディネータについて説明できる。
- 幼児教育コーディネータの活動について具体的に説明できる。
- 幼児教育コーディネータと幼児教育アドバイザーの違いについて具体例を挙げて説明できる。

幼児教育コーディネータ概論

第2講 「幼児教育コーディネータ」

久世 均(岐阜女子大学)